

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475501326	事業の開始年月日	2006年3月1日	
		指定年月日	2006年3月1日	
法人名	コスモスケア株式会社			
事業所名	グループホーム コスモス松陵 1階 うぐいすユニット			
所在地	(〒 981-3108) 仙台市泉区松陵1丁目28-1			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	R4年8月23日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、自然豊かな環境に恵まれ季節を感じる事ができ、コロナ禍に於いてもテラスでお茶や食事を楽しみ調理員が配置され、バラエティー豊かなメニューを手作りで提供しております。
医療面に於いては往診クリニックと連携し24時間対応で診察が受けられる体制を整えております。
夜間の入居者様方の様子については、最先端のロボットテクノロジーを取り入れた機器を活用しICT化が進んでおり、記録もタブレットで様子や言葉を入力し、ケアカルテが作成され介護計画に反映されます。
ユニットの理念 ”喜笑添結” (きしょうてんけつ) =共に喜び・笑い合い・寄り添い・縁を結ぶ をモットーに 家庭的な雰囲気の中安心して過ごすことができるよう努めております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年12月15日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の理念】 ユニットうぐいす「喜笑添結」(共に喜び、笑いあい、寄り添い、縁を結ぶ) ユニットひばり「まごころ」(温かい心で優しい声掛けをし、よりよい関わりをおこなっていきます)</p> <p>【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等 母体法人は宮城県内に10の介護施設を運営しているコスモスケア株式会社である。グループホームコスモス松陵は松陵団地と鶴ヶ丘団地のちょうど境に立地し、すぐ側には小川が流れており、公園や緑に囲まれた地域住民の散歩コースもある。建物は3階建てで、1・2階はグループホーム、3階には小規模多機能型介護施設がある。各階にスプリンクラーを設置し、火災の際は階ごとに隔離できる構造になっている。また、1階にあるテラスは外気浴の場になったり、各ユニット廊下は利用者がくつろぐ居場所や散歩のコースにもなる。裏庭には畑があり、みんなで育てた旬の野菜は食卓に上り利用者の楽しみになっている。</p> <p>【事業所の優れている点・工夫点】 事業所は職員の教育・育成が重要課題として取組んでおり、資格取得時には資金援助も行っている。法人として、新人教育から職員一人ひとりに合わせた学習・成長を促す教育体系が構築されている。法人全体での合同研修や、事業所間の職員異動も行われ、広い視野や異なる環境で介護を考えられる素地が作られている。日々の利用者の様子や言葉をタブレットに入力しケアカルテを作成しており、職員間の情報共有や介護計画作成に活かしている。機械浴や、介護ロボットによる予測型見守りシステムを取り入れたり、調理員を配置するなど、職員の介護負担が軽減するよう取組んでいる。コロナ禍で地域との交流の機会は少なくなっているが、立地を生かし散歩をしたり、花見にドライブへ行くなど、利用者が四季の移ろいを感じながら落ち着いた生活ができるように支援している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム コスモス松陵
ユニット名	1階うぐいす

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある
	<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまにある
	<input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	<input type="radio"/> 4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4. 全くいない
66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス松陵）「ユニット名：うぐいす」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念とは別にユニット毎に理念を作成掲示。毎日ミーティングで唱和「喜笑添結」スタッフ間で共有し実践。ケアで迷ったときは理念を振り返り入居者がその人らしく笑顔で生活できるよう日々のケアに活かしている。	法人の理念とともに各ユニットの理念をリビングに掲示し、毎朝申し送り時に唱和している。各ユニット理念は毎年振返りを行い、今年度は前年度の理念を継続している。ケアに困ったときは理念に立ち戻るように取組んでいる。介護計画は、理念を念頭に利用者がその人らしく笑顔で過ごせるように考えて作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止対策のため今までおこなっていた交流会は控え幼稚園とは手作りプレゼントの交換をおこないながら、つながりが途切れないよう努めている。地域の方々とは散歩等で挨拶を交わしている。	町内会に加入している。コロナ禍で地域との交流は少なくなっているが、15年続いている近隣の幼稚園児とのプレゼント交換は今年も行い楽しんだ。事業所の前は緑に囲まれた地域住民の散歩コースになっており、散歩時にはよく挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染防止対策のため、今までおこなっていた交流会を控えている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの感染拡大が収まらず2ヶ月に1度テーマを決めアンケート形式で開催。役員の方々からもこの状況での集合は無理との意見。WEBでの開催を検討したがパソコン操作が難しく対応ができなかった。	会議メンバーは松陵の町内会・鶴ヶ丘の町内会の会長、民生委員、地区社協広報担当者、地域包括職員、利用者家族、管理者の10人で構成している。コロナ禍で集まった開催はせず、テーマを決めアンケート形式で意見をとり纏め議事録にして、次の案内と一緒に送付している。コロナ感染が落ち着いた時期に、地区の集会所で対面での会議を開催したこともあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護課へは毎月広報誌を送付。保護課担当者による面会があった。仙台市へワクチンの接種状況を報告。感染予防対策についてメールが届き職員へ周知している。	市職員が生活保護を受けている利用者に出会って来訪したり、保護課に広報紙を送付している。その他に仙台市からは都度コロナ感染予防対策についての知らせが来ている。事業所からはワクチン接種状況を報告するなど、感染予防対策について密に連絡を取り合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎、身体拘束廃止委員会を開催。マニュアルを基に勉強会を実施。職員からの「検討シート」を基に検討し発生理由や背景を考え「ちょっと待って」など、なにげない言葉がグレーゾーンであると認識を深め改善に繋げている。各研修に参加した資料を基に拘束のないケアを実践している。さらに身体拘束等適正化委員会を立上げ適正化のための指針を基に取り組みをおこなっている。日中施錠はしていない。	3ヶ月ごとに身体拘束廃止委員会を開催している。職員からの報告を基に、発生原因・対策を検討し、検討結果を全職員に周知して実践に活かし、次回の委員会で対策実施後に評価を行っている。これらを「検討シート」に記録後ファイリングし、職員が情報共有できるように取り組んでいる。毎月の定例会議の中で勉強会を行っている。玄関施錠は夜7時から翌朝7時までである。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	実例は発生していない。虐待防止マニュアルを基に勉強会を実施。具体的な例を挙げ理解を深めている。独自の取り組みとして相手の良いケアを認める「ハート・スマイル」の取り組みをおこなっている。	月1回、虐待防止のマニュアルを基に勉強会を行っていた。現在はコロナ感染拡大で個別学習に切り替え、職員は各自で資料集を持ち、常に確認することができる。独自の取り組みとして、「ハート・スマイル（良いと思う所・悪いと思う所の言葉遣いやふるまいを記録提出）」を実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した資料を基に勉強会実施。ホーム利用者2名の方は成年後見人制度を利用。良好な関係が保てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する際は、管理者と関係職員同席のもと懇切丁寧な説明を心がけ理解を頂いている。内容が変更となった際には都度説明しご理解頂き、同意を得ていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、家族との面会は感染予防を徹底し、テラスや窓越しにて実施。来訪できない家族からは、電話や便りで細かな情報を伝え、要望を聞いている。第三者委員を地域住民に委嘱している。	コロナ禍のため、家族との面会はテラスでや窓越しで実施している。家族からの意見、要望等は面会時や電話で聞き取っている。家族にはユニットごと作成している便りと、職員が写真と一緒に一文添えた手紙を送っており、「様子がわかる」との感想が寄せられ、アルバムにしている家族もいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	目標設定シートを基に年2回の面談実施。目標を反映できる体制を整えている。定例会議の中で「環境」「行事・食事」「事故対策」「感染防止対策」の委員会を設け、全職員で役割を担い運営に反映。	職員は個々の目標シートを作成し、その振り返りを年2回の個人面談で行っている。面談時、職員から意見・要望を聞いている。また、職員は定められた委員会のいずれかに所属し、意見を運営に反映させている。法人は職員の資格取得のための資金支援もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施。向上心を持って働けるよう配慮している。キャリアパス制度に則り、資格取得の補助を活用し、キャリアアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や定期職場内研修、スキルアップ研修等への参加及び定例会議でのマニュアル勉強会、研修受講後の伝達報告会にて情報の共有を図っている。また社内で企画している研修に参加し学びを深めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染防止対策のため今までおこなっていた交流は控えているが職員については仙台市で実施しているスキルアップ研修等に参加している。	仙台市主催の研修に、職員から希望を聞き、参加できるように努め、参加時に他事業所の職員と交流している。また、法人内での新人研修やリーダー研修などで、他事業所の職員と意見交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者、居室担当者が中心となり本人や家族から今後の生活について要望等を伺いながら信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し寄り添い、支えていくことで信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みから入居までの時間がある場合は、待機期間中に必要なサービス（在宅サービス）についてパンフレット等を用いて情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で食事・掃除・洗濯等共同生活を送る事でお互いに助け合い、個々の考えや価値観に触れ理解し合える関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会も制限はあるものの近況については、毎月の手紙や広報誌、電話等で生活の様子を伝えている。ご家族からも様子確認の電話を頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話で交流を続けられるよう対応している。テレビ番組から出身地の話題やその日のニュースを通して馴染の場所や人を思い出していただけるよう努めている。ドライブでお花見を楽しんでいただいた。	コロナ禍で馴染みの商店や美容院に出かけられないが、車で近隣の桜や彼岸花を見学に出かけたりして季節を感じ楽しんでいる。入居前に通っていた教会と手紙をやり取りしたり、携帯電話で家族と話せるよう支援している。3ヶ月に1回位、訪問理容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テラスで歌会やお茶、おやつや食事を楽しんだり行事で交流し、利用者同士の関係を把握。孤立しないように関わり、支え合える環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じパンフレット等送付にて情報の提供等をおこない支援に努めている。ご逝去後も運営推進会議の役員を続けている方や花壇の手入れをおこなっている方等、関係性が築かれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々会話の中から思いや希望を把握。言葉で表現する事が難しい方については表情や反応を確認し対応。家族の意向も伺いながら、介護計画を作成している。	利用者の日々の思いや意向は、何気ない会話や表情などからくみ取っている。職員は気づいたことをタブレットに入力しケアカルテを作成して、職員間で情報共有を図っている。意思の表示が難しい人にも、職員が声掛けなど働きかけを工夫し、表情や仕草から思いや意向をくみ取るよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活状況を本人や家族から伺い情報として共有し、介護計画に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を個別に記録（ケアカルテ）し情報共有すると共に、カンファレンスで話し合い現状把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス内容を毎日チェック 「○」「/」日々情報を共有し、毎月カンファレンスで話し合いケアに活かしている。3ヶ月毎のサービス計画の見直しの際に本人や家族から意向伺い良い介護計画作成となるよう努めている。また主治医や看護師の意見も反映している。	サービス内容は毎日全職員でチェックし、毎月カンファレンスを行い情報共有している。介護計画は状態が安定している人は6ヶ月に1回を基本とし、状態の変化時に応じ都度見直している。家族からは電話等で要望を聞き、介護計画を説明し、同意を得ている。利用者の状態により、本人に説明しサインをもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の様子についてはケアカルテ内の日常記録管理へ入力。スタッフ間では連絡ノートを活用し情報の共有に努め介護計画に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの状態・状況に合わせ随時モニタリングをおこない、介護計画を作成、の方の希望に沿った計画を立てているが、感染拡大につき、難しい状況である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域のサロンへの外出や近隣スーパーへの買い物も見合わせホームへ配達に来る食材業者とも馴染みの関係を築いていたが自粛している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点で本人、家族と相談し適切な医療が受けられるよう支援。24時間対応可能な往診クリニックと連携を図っている。専門的な受診が必要な場合は、主治医の指示に従い看護師が家族と相談し対応。	協力医療機関をかかりつけ医としている利用者の受診には職員が同行している。また、24時間対応の訪問医をかかりつけ医にしている利用者が多く、月2回の訪問診療を受診している。訪問歯科を利用している人もいる。家族付き添いで通院するときは、書面や口頭で状態を説明している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状況と違いが見られた際は看護師へ相談。適切なケアや医療を受けられるよう情報を共有し、協働に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、緊急対応ファイル・サマリーを活用し、様子や経過を情報共有している。コロナ禍により面会出来ず。退院時に情報をいただきケアの参考にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については入居の際に「看取りに関する指針」を用いて説明。早い段階から本人・家族等と話し合い意向を確認しておく。終末期に入った際、家族、主治医、看護師職員を交えてサービス担当者会議を実施。意向に沿った介護計画を作成しチームで支援に取り組んでいる。	入居時に「看取りに関する指針」について説明し、重度化したときは家族と話し合い「看取り契約書」を交わし支援を行っている。24時間対応の訪問医、訪問看護師と連携している。看取りの際は他の利用者の同意を得て玄関やエレベーターに近い部屋に移動したり、家族と会えるように取組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的マニュアルを参考にした勉強会を実施。看護師の指導の下、緊急時に備えている。仙台市消防局 救急課 より要請があった「救急連絡シート」を作成し4ヶ月毎に更新している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練は年2回実施。毎月11日を防災の日とし備品を点検。今年は大雨・土砂災害の警報が度々。地理的な制約あり、隣接の鶴が丘地区の協力は難しく、3階建ての施設なので上階へ垂直避難としている。避難用担架も準備している。備蓄は7日以上確保している。	火災、風水害、地震対応マニュアルを作成し、年2回夜間想定避難訓練を行っているが、立地環境から住民の参加はない。土砂崩れの危険状況を予測した垂直避難を予定しており、担架も準備して実際に訓練も行っている。設備は業者が定期的に点検している。コロナ感染予防対策として換気を徹底し、手洗い体温測定、うがいを励行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した対応に努めプライバシー確保の研修は身体拘束廃止委員会と一緒に開催し年間研修計画の中に取り入れ学んでいる。呼び方については本人の意向に添って苗字や名前と呼んでいる。	年1回プライバシー保護の研修を行い、身体拘束廃止委員会と連携して研修を実施している。トイレ誘導やパッドの交換などはさりげなく声掛けし行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いを傾聴すると共に介護計画に反映。言葉で表現することが難しい方については表情や様子から想いをくみ取り自己決定できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活において一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容サービスを利用している。日々清潔保持に努めると共に季節に応じた身だしなみやおしゃれを楽しむことができるような支援をおこなっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や好みを取り入れた食事を一緒に調理し食事を楽しんでいたが、入居者のADLの低下や認知症の進行により殆ど出来なくなった。献立は社内の栄養士が作成。収穫した野菜を穫り入れるなどアレンジし、誕生会やセレクトメニュー等も毎月実施している。コロナ対策として食事は横並びにする等工夫し、感染予防に取り組んでいる。	献立は法人の栄養士が作成し、朝食は夜勤職員が担当し、昼・夕食は調理担当の職員が用意している。誕生会やセレクトメニュー（月1回）の時は利用者から希望を聞き、メニューを決め『おはぎ』や『ちらし寿司』などを楽しんでいる。みんなで育てた旬の野菜も食卓に上っている。職員と一緒に食事はせず、見守りや介助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導の下、バランスの摂れた食事を提供している。また、水分量を把握し好みに応じた飲み物を提供。むせ込みが見られる方には、トロミを活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。口腔内の清潔を保っている。治療が必要な時は往診歯科の診療を受けている。その方に合った舌ブラシ、360°磨ける歯ブラシ等を使用している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立を促すためトイレの表示を大きくタイミングを見ながらさりげない声かけをおこなっている。夜間は最先端のロボットテクノロジーの見守り機器を活用し、居室での動きを把握。便秘予防には食事に乳製品を摂り入れ対応している。	トイレには大きく「トイレ」や「お便所」「男女マーク」などを表示し、見当識にも配慮しわかりやすいように工夫している。一人ひとりのタイミングに合わせ、声掛けしトイレで排泄ができるよう支援している。見守り機器を導入し、夜間ケアの軽減に繋げている。便秘予防として、食事に乳製品を摂り入れるなど食事面でも工夫しているが、医師の処方薬を使用している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の運動や水分の摂取状況等を把握し快適な排便に繋がるよう努めている。栄養士の指導の下、食物繊維を多く含むメニューを取り入れている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望にて入浴が出来るよう対応している。また菖蒲湯やゆず湯など季節の楽しみも取り入れている。リフト浴の機器が導入され、重度化した状態でも入浴出来るようになっている。	希望を聞き、週2～3回入浴している。毎日入浴する人もいる。1階のユニットにリフト浴を導入しており、2階の利用者も含め重度化しても安全に入浴することができる。入浴を好まない人には好きな音楽を流して雰囲気を作り工夫して支援するなど、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間や起床時間は定めていない。夜間帯は間接照明にて安眠できるように配慮している。また不眠傾向の方に対しては日中の過ごし方を見直し、安眠出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について理解できるよう処方箋をファイリングしている。また日付け名前を読み合わせし、再確認の上内服していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別アクティビティをおこない一人ひとりと接する時間を多く取れるように努めている。新型コロナウイルス感染防止対策の為にホーム内行事を主とし気分転換につなげている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染が拡大し、収束が見られない現状にて、外出支援は控えている。ホーム周辺を散歩、裏庭で野菜を育て、テラスで外気浴をし気分転換を図っている。収穫した旬の野菜を食事に摂り入れみんなで楽しんでいる。	コロナ禍で外出が難しくなっているが、車で花見や近隣にドライブへ出かけている。テラスで食事会をしたり、天気の良い日には事業所周辺を散歩するようにしている。裏の畑で野菜を育て、そこで収穫した旬の野菜をメニューに加えて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方については家族の同意をいただいた上でホームで預り毎月収支報告をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月家族へお便りを書いたり、電話にて親族や友人とやり取りが出来るよう支援している。家族から電話をいただく事もよくある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍を考慮し、共用スペースでは「3密にならない」「対面にならない」「空気の入替え」「加湿」に取り組んでいる。リビングや通路にはソファが置かれ、一人で過ごせる居場所も設けている。	リビングや廊下の窓を開けて換気を心がけている。また、大型加湿器も導入し湿度保持にも気を配っている。コロナ感染予防対策を徹底し、テーブルや椅子の配置を工夫し利用者同士が対面にならないようにしている。廊下にもソファを置き、利用者が好きな場所でくつろげる居場所も設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて入居者同士がくつろいだりコミュニケーションの場として過ごせるようソファ・テーブルを配置している。コロナ禍により向かい合わないよう席の配置工夫をおこなっている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく安心して過ごせるよう使い慣れた馴染みの物や写真を飾っている。居室は一人ひとりの状態に配慮しながらベッドの配置等を工夫している。自分の部屋として居心地良く過ごしている。	ベッド、机、クローゼットが備え付けられている。利用者の状態に応じ、ベッドや家具など使いやすいよう配置を工夫している。利用者はテレビやテーブル、趣味の大正琴など、馴染みのものを持ち込み、気に入った新聞記事を貼るなど、その人らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室などは大きな文字で分かりやすく表記している。また、車椅子の方も手すりに沿って動くことができるように配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475501326	事業の開始年月日	2006年3月1日	
		指定年月日	2006年3月1日	
法人名	コスモスケア株式会社			
事業所名	グループホーム コスモス松陵 2階 ひばりユニット			
所在地	(〒 981-3108) 仙台市泉区松陵1丁目28-1			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	R4年8月23日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、自然豊かな環境に恵まれ季節を感じる事ができ、コロナ禍に於いてもテラスでお茶や食事を楽しみ調理員が配置され、バラエティー豊かなメニューが手作りで提供しております。

医療面においては往診クリニックと連携し、24時間対応で診察が受けられる体制を整えております。

日々のケアに於いても最先端のロボットテクノロジーを取り入れた機器を活用しICT化が進み、記録についてもタブレットで様子や言葉を入力し、ケアカルテが作成され介護計画に反映されます。

コロナ禍に於いてもテーマを決め「アンケート」で意見を頂き、工夫しながら運営推進会議に取り組んでいます。家庭的な雰囲気の中ユニットの理念”まごころ”＝温かい心・優しい声かけ・より良い関わりをモットーに安心して過ごすことができるよう努めております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年12月15日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

ユニットうぐいす「喜笑添結」(共に喜び、笑いあい、寄り添い、縁を結ぶ)
ユニットひばり「まごころ」(温かい心で優しい声掛けをし、よりよい関わりをおこなっていきます)

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人は宮城県内に10の介護施設を運営しているコスモスケア株式会社である。グループホームコスモス松陵は松陵団地と鶴ヶ丘団地のちょうど境に立地し、すぐ側には小川が流れており、公園や緑に囲まれた地域住民の散歩コースもある。建物は3階建てで、1・2階はグループホーム、3階には小規模多機能型介護施設がある。各階にスプリンクラーを設置し、火災の際は階ごとに隔離できる構造になっている。また、1階にあるテラスは外気浴の場になったり、各ユニット廊下は利用者がくつろぐ居場所や散歩のコースにもなる。裏庭には畑があり、みんなで育てた旬の野菜は食卓に上り利用者の楽しみになっている。

【事業所の優れている点・工夫点】

事業所は職員の教育・育成が重要課題として取り組んでおり、資格取得時には資金援助も行っている。法人として、新人教育から職員一人ひとりに合わせた学習・成長を促す教育体系が構築されている。法人全体での合同研修や、事業所間の職員異動も行われ、広い視野や異なる環境で介護を考えられる素地が作られている。日々の利用者の様子や言葉をタブレットに入力しケアカルテを作成しており、職員間の情報共有や介護計画作成に活かしている。機械浴や、介護ロボットによる予測型見守りシステムを取り入れたり、調理員を配置するなど、職員の介護負担が軽減できるよう取り組んでいる。コロナ禍で地域との交流の機会は少なくなっているが、立地を生かし散歩をしたり、花見にドライブへ行くなど、利用者が四季の移ろいを感じながら落ち着いた生活ができるように支援している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホーム コスモス松陵
ユニット名	2階ひばり

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある
	<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまにある
	<input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	<input type="radio"/> 4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4. 全くいない
66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス松陵 ）「ユニット名：ひばり」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念とは別にユニット毎に理念を作成掲示。毎日ミーティングで唱和「まごころ」をスタッフ間で共有し実践。ケアで迷ったときは理念を振り返り入居者がその人らしく笑顔で生活できるように日々のケアに活かしている。	法人の理念とともに各ユニットの理念をリビングに掲示し、毎朝申し送り時に唱和している。各ユニット理念は毎年振返りを行い、今年度は前年度の理念を継続している。ケアに困ったときは理念に立ち戻るように取組んでいる。介護計画は、理念を念頭に利用者がその人らしく笑顔で過ごせるように考えて作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止対策のため今までおこなっていた交流会は控え幼稚園とは手作りプレゼントの交換をおこないながら、つながりが途切れないうよう努めている。地域の方々とは散歩等で挨拶を交わしている。	町内会に加入している。コロナ禍で地域との交流は少なくなっているが、15年続いている近隣の幼稚園児とのプレゼント交換は今年も行い楽しんだ。事業所の前は緑に囲まれた地域住民の散歩コースになっており、散歩時にはよく挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染防止対策のため今までおこなっていた交流会を控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの感染拡大が収まらず2ヶ月に1度テーマを決めアンケート形式で開催。役員の方々からもこの状況での集合は無理との意見。WEBでの開催を検討したがパソコン操作が難しく対応ができなかった。	会議メンバーは松陵の町内会・鶴ヶ丘の町内会の会長、民生委員、地区社協広報担当者、地域包括職員、利用者家族、管理者の10人で構成している。コロナ禍で集まった開催はせず、テーマを決めアンケート形式で意見をとり纏め議事録にして、次の案内と一緒に送付している。コロナ感染が落ち着いた時期に、地区の集会所で対面での会議を開催したこともあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護課へは毎月広報誌を送付。保護課担当者による面会があった。仙台市へワクチンの接種状況を報告。感染予防対策についてメールが届き職員へ周知している。	市職員が生活保護を受けている利用者に会いに来訪したり、保護課に広報紙を送付している。その他に仙台市からは都度コロナ感染予防対策についての知らせが来ている。事業所からはワクチン接種状況を報告するなど、感染予防対策について密に連絡を取り合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎、身体拘束廃止委員会を開催。マニュアルを基に勉強会を実施。職員からの「検討シート」を基に検討し発生理由や背景を考え「ちょっと待って」など、なにげない言葉がグレーゾーンであると認識を深め改善に繋げている。各研修に参加した資料を基に拘束のないケアを実践している。さらに身体拘束等適正化委員会を立上げ適正化のための指針を基に取り組みををおこなっている。日中施錠はしていない。	3ヶ月ごとに身体拘束廃止委員会を開催している。職員からの報告を基に、発生原因・対策を検討し、検討結果を全職員に周知して実践に活かし、次回の委員会で対策実施後に評価を行っている。これらを「検討シート」に記録後ファイリングし、職員が情報共有できるように取り組んでいる。毎月の定例会議の中で勉強会を行っている。玄関施錠は夜7時から翌朝7時までである。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実例は発生していない。虐待防止マニュアルを基に勉強会を実施。具体的な例を挙げ理解を深めている。独自の取り組みとして相手の良いケアを認める「ハート・スマイル」の取り組みをおこなっている。	月1回、虐待防止のマニュアルを基に勉強会を行っていた。現在はコロナ感染拡大で個別学習に切り替え、職員は各自で資料集を持ち、常に確認することができる。独自の取り組みとして、「ハート・スマイル（良いと思う所・悪いと思う所の言葉遣いやふるまいを記録提出）」を実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した資料を基に勉強会実施。ホーム利用者2名の方は成年後見人制度を利用。良好な関係が保っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する際は、管理者と関係職員同席のもと懇切丁寧な説明を心がけ理解を頂いている。内容が変更となった際には都度説明しご理解頂き、同意を得ていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、家族との面会は感染予防を徹底し、テラスや窓越しにて実施。来訪できない家族からは、電話や便りで細かな情報を伝え、要望を聞いている。第三者委員を地域住民に委嘱している。	コロナ禍のため、家族との面会はテラスでや窓越しで実施している。家族からの意見、要望等は面会時や電話で聞き取っている。家族にはユニットごと作成している便りと、職員が写真と一緒に一文添えた手紙を送っており、「様子がわかる」との感想が寄せられ、アルバムにしている家族もいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	目標設定シートを基に年2回の面談実施。目標を反映できる体制を整えている。定例会議の中で「環境」「行事・食事」「事故対策」「感染防止対策」の委員会を設け、全職員で役割を担い運営に反映。	職員は個々の目標シートを作成し、その振り返りを年2回の個人面談で行っている。面談時、職員から意見・要望を聞いている。また、職員は定められた委員会のいずれかに所属し、意見を運営に反映させている。法人は職員の資格取得のための資金支援もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施。向上心を持って働けるよう配慮している。キャリアパス制度も導入し資格取得の補助を活用し、キャリアアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や定期職場内研修、スキルアップ研修等への参加及び定例会議でのマニュアル勉強会、研修受講後の伝達報告会にて情報の共有を図っている。また社内で企画している研修に参加し学びを深めている		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染防止対策のため今までおこなっていた交流は控えているが職員については仙台市で実施しているスキルアップ研修等に参加している。	仙台市主催の研修に、職員から希望を聞き、参加できるように努め、参加時に他事業所の職員と交流している。また、法人内での新人研修やリーダー研修などで、他事業所の職員と意見交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者、居室担当者が中心となり本人や家族から今後の生活について要望等を伺いながら信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し寄り添い、支えていくことで信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みから入居までの時間がある場合は、待機期間中に必要なサービス（在宅サービス）についてパンフレット等を用いて情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で食事・掃除・洗濯等共同生活を送る事でお互いに助け合い、個々の考えや価値観に触れ理解し合える関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会も制限はあるものの近況については、毎月の手紙や広報誌、電話等で生活の様子を伝えている。ご家族からも様子確認の電話を頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話で交流を続けられるよう対応している。テレビ番組から出身地の話題やその日のニュースを通して馴染の場所や人を思い出していただけるよう努めている。ドライブでお花見楽しんでいただいた。	コロナ禍で馴染みの商店や美容院に出かけられないが、車で近隣の桜や彼岸花を見学に出かけたりして季節を感じ楽しんでい。入居前に通っていた教会と手紙をやり取りしたり、携帯電話で家族と話せるよう支援している。3ヶ月に1回位、訪問理容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テラスで歌会やお茶、おやつや食事を楽しんだり行事で交流し、利用者同士の関係を把握。 孤立しないように関わり、支え合える環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じパンフレット等送付にて情報の提供等をおこない支援に努めている。ご逝去後も運営推進会議の役員を続けている方や花壇の手入れをおこなっている方等、関係性が築かれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々会話の中から思いや希望を把握。言葉で表現する事が難しい方については表情や反応を確認し対応。家族の意向も伺いながら、介護計画を作成している。	利用者の日々の思いや意向は、何気ない会話や表情などからくみ取っている。職員は気づいたことをタブレットに入力しケアカルテを作成して、職員間で情報共有を図っている。意思の表示が難しい人にも、職員が声掛けなど働きかけを工夫し、表情や仕草から思いや意向をくみ取るよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活状況を本人や家族から伺い情報として共有し、介護計画に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を個別に記録（ケアカルテ）し情報共有すると共にカンファレンスで話し合い現状把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス内容を毎日チェック 「○」「/」日々情報を共有し、毎月カンファレンスで話し合いケアに活かしている。3ヶ月毎のサービス計画の見直しの際に本人や家族から意向伺い良い介護計画作成となるよう努めている。また主治医や看護師の意見も反映している。	サービス内容は毎日全職員でチェックし、毎月カンファレンスを行い情報共有している。介護計画は状態が安定している人は6ヶ月に1回を基本とし、状態の変化時に応じ都度見直している。家族からは電話等で要望を聞き、介護計画を説明し、同意を得ている。利用者の状態により、本人に説明しサインをもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の様子についてはケアカルテ内の日常記録管理へ入力。スタッフ間では連絡ノートを活用し情報の共有に努め介護計画に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの状態・状況に合わせて随時モニタリングをおこない、介護計画を作成、その方の希望に沿った計画を立てているが、感染拡大につき、難しい状況である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域のサロンへの外出や近隣スーパーへの買い物も見合わせホームへ配達に来る食材業者とも馴染みの関係を築いていたが自粛している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点で本人、家族と相談し適切な医療が受けられるよう支援。24時間対応可能な往診クリニックと連携を図っている。専門的な受診が必要な場合は、主治医の指示に従い看護師が家族と相談し対応。	協力医療機関をかかりつけ医としている利用者の受診には職員が同行している。また、24時間対応の訪問医をかかりつけ医にしている利用者が多く、月2回の訪問診療を受診している。訪問歯科を利用している人もいる。家族付き添いで通院するときは、書面や口頭で状態を説明している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状況と違いが見られた際は看護師へ相談。適切なケアや医療を受けられるよう情報を共有し、協働に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、緊急対応ファイル・サマリーを活用し、様子や経過を情報共有している。コロナ禍により面会出来ず。退院時に情報をいただきケアの参考にしてている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については入居の際に「看取りに関する指針」を用いて説明。早い段階から本人・家族等と話し合い意向を確認しておく。 終末期に入った際、家族、主治医、看護師職員を交えてサービス担当者会議を実施。意向に沿った介護計画を作成しチームで支援に取り組んでいる。	入居時に「看取りに関する指針」について説明し、重度化したときは家族と話し合い「看取り契約書」を交わし支援を行っている。24時間対応の訪問医、訪問看護師と連携している。看取りの際は他の利用者の同意を得て玄関やエレベーターに近い部屋に移動したり、家族と会えるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にマニュアルを参考にした勉強会を実施。看護師の指導の下、緊急時に備えている。仙台市消防局 救急課 より要請があった「救急連絡シート」を作成し4ヶ月毎に更新している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練は年2回実施。 毎月11日を防災の日とし備品を点検。 今年は大雨・土砂災害の警報が度々。 地理的な制約あり、隣接の鶴が丘地区の協力は難しく、3階建ての施設なので上階へ垂直避難としている。 避難用担架も準備している。 備蓄は7日分以上確保している。	火災、風水害、地震対応マニュアルを作成し、年2回夜間想定避難訓練を行っているが、立地環境から住民の参加はない。土砂崩れの危険状況を予測した垂直避難を予定しており、担架も準備して実際に訓練も行っている。設備は業者が定期的に点検している。コロナ感染予防対策として換気を徹底し、手洗い体温測定、うがいを励行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した対応に努めプライバシー確保の研修は身体拘束廃止委員会と一緒に開催し年間研修計画の中に取り入れ学んでいる。呼び方については本人の意向に添って苗字や名前前で呼んでいる。	年1回プライバシー保護の研修を行い、身体拘束廃止委員会と連携して研修を実施している。トイレ誘導やパッドの交換などはさりげなく声掛けし行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いを傾聴すると共に介保計画に反映。言葉で表現することが難しい方については表情や様子から想いをくみ取り自己決定できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活において一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容サービスを利用している。日々清潔保持に努めると共に季節に応じた身だしなみやおしゃれを楽しむ事ができるような支援をおこなっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や好みを取り入れた食事を一緒に調理し食事を楽しんでいたが、入居者のADLの低下や認知症の進行により殆ど方出来なくなった。献立は社内の栄養士が作成。収穫した野菜を穫り入れるなどアレンジし、誕生会やセレクトメニュー等も毎月実施している。コロナ対策として食事は横並びにする等工夫し、感染予防に取り組んでいる。	献立は法人の栄養士が作成し、朝食は夜勤職員が担当し、昼・夕食は調理担当の職員が用意している。誕生会やセレクトメニュー（月1回）の時は利用者から希望を聞き、メニューを決め『おはぎ』や『ちらし寿司』などを楽しんでいる。みんなで育てた旬の野菜も食卓に上っている。職員と一緒に食事はせず、見守りや介助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導の下、栄養バランスの摂れた食事を提供している。また、水分量を把握し好みに応じた飲み物を提供。むせ込みが見られる方には、トロミを活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。口腔内の清潔を保っている。治療が必要な時は往診歯科の診療を受けている。その方に合った舌ブラシ、360°磨ける歯ブラシ等を使用している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立を促すためトイレの表示を大きくタイミングを見ながらさりげない声かけをおこなっている。夜間は最先端のロボットテクノロジーの見守り機器を活用し、居室での動きを把握。便秘予防には食事に乳製品を摂り入れ対応している。	トイレには大きく「トイレ」や「お便所」「男女マーク」などを表示し、見当識にも配慮しわかりやすいように工夫している。一人ひとりのタイミングに合わせ、声掛けしトイレで排泄ができるよう支援している。見守り機器を導入し、夜間ケアの軽減に繋げている。便秘予防として、食事に乳製品を摂り入れるなど食事面でも工夫しているが、医師の処方薬を使用している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の運動や水分の摂取状況等を把握し快適な排便に繋がるよう努めている。栄養士の指導の下、食物繊維を多く含むメニューを取り入れている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望にて入浴が出来るよう対応している。また菖蒲湯やゆず湯など季節の楽しみも取り入れている。リフト浴の機器が導入され、重度化した状態でも入浴出来るようになっている。	希望を聞き、週2～3回入浴している。毎日入浴する人もいる。1階のユニットにリフト浴を導入しており、2階の利用者も含め重度化しても安全に入浴することができる。入浴を好まない人には好きな音楽を流して雰囲気を作り工夫して支援するなど、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間や起床時間は定めていない。夜間帯は間接照明にて安眠できるように配慮している。また不眠傾向の方に対しては日中の過ごし方を見直し、安眠出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について理解できるよう処方箋をファイリングしている。また日付け名前を読み合わせし、再確認の上内服していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別アクティビティをおこない一人ひとりと接する時間を多く取れるように努めている。新型コロナウイルス感染防止対策の為にホーム内行事を主とし気分転換につなげている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染が拡大し、収束が見られない現状にて、外出支援は控えている。ホーム周辺を散歩、裏庭で野菜を育てテラスで外気浴をし気分転換を図っている。収穫した旬の野菜を食事に摂り入れみんなで楽しんでいる。	コロナ禍で外出が難しくなっているが、車で花見や近隣にドライブへ出かけている。テラスで食事会をしたり、天気の良い日には事業所周辺を散歩するようにしている。裏の畑で野菜を育て、そこで収穫した旬の野菜をメニューに加えて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方については家族の同意をいただいた上でホームで預り毎月収支報告をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月家族へお便りを書いたり、電話にて親族や友人とやり取りができるよう支援している。家族から電話をいただく事もよくある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍を考慮し、共用スペースでは「3密にならない」「対面にならない」「空気の入れ替え」「加湿」に取り組んでいる。リビングや通路にはソファが置かれ、一人で過ごせる居場所も設けている。	リビングや廊下の窓を開けて換気を心がけている。また、大型加湿器も導入し湿度保持にも気を配っている。コロナ感染予防対策を徹底し、テーブルや椅子の配置を工夫し利用者同士が対面にならないようにしている。廊下にもソファを置き、利用者が好きな場所でくつろげる居場所も設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて入居者同士がくつろいだりコミュニケーションの場として過ごせるようソファ・テーブルを配置している。コロナ禍により向かい合わないよう席の配置工夫をおこなっている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく安心して過ごせるよう使い慣れた馴染みの物や写真を飾っている。居室は一人ひとりの状態に配慮しながらベッドの配置等を工夫している。自分の部屋として居心地良く過ごしている。	ベッド、机、クローゼットが備え付けられている。利用者の状態に応じ、ベッドや家具など使いやすいよう配置を工夫している。利用者はテレビやテーブル、趣味の大正琴など、馴染みのものを持ち込み、気に入った新聞記事を貼るなど、その人らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室などは大きな文字で分かりやすく表記している。また、車椅子の方も手すりに沿って動くことができるように配慮している。		